

温暖化による道内各都市の 夏日と真夏日の年間日数の増加予測

| | 夏日(最高気温25度以上) | | 真夏日(最高気温30度以上) | |
|----|---------------|-----------|----------------|----------|
| | 現在 | 将来 | 現在 | 将来 |
| 札幌 | 45.6 | 68.6~79.9 | 7.7 | 9.8~18.9 |
| 旭川 | 56.3 | 75.1~91.4 | 10.4 | 8.5~19.8 |
| 函館 | 34.3 | 38.3~55.9 | 3.1 | 0~3.6 |
| 釧路 | 4.7 | 5.7~18.3 | 0.1 | 0~2.3 |
| 帯広 | 40.5 | 52.0~68.3 | 9.3 | 5.3~12.0 |
| 室蘭 | 15.8 | 9.7~46.5 | 0.3 | 0~3.9 |
| 網走 | 22.1 | 9.8~45.9 | 3.5 | 0.2~4.1 |
| 稚内 | 7.3 | 3.5~23.5 | 0.1 | 0~0.1 |

※現在は20世紀後半、将来は21世紀後半の年間平均日数

北大大学院工学研究科の山田朋人准教授(水文学・河川工学)らの研究グループは、道内での温暖化の影響について独自の手法による気候計算シミュレーションを行い、予測数値の結果をまとめた。21世紀後半における札幌の夏日の年間日数が現在の1.5~1.75倍に増えるなど、各都市で気温の上昇傾向が顕著に現れた。研究グループなどは11月中にもホームページ(H.P.)を開設し、予測データを一般に公開する。

道内温暖化 北大が予測

札幌夏日 1.75倍

今世紀後半 月内にデータ公開

温暖化は積雪量の減少や融雪時期の変化をもたらす、農業など道内産業への影響が予想される。予測データの公開によって、将来



山田朋人 准教授

的な企業の戦略や自治体の政策立案の判断材料にしてもらう狙いだ。山田准教授らは文部科学省の委託を受け、2010年度から5カ年計画で研究を進めており、結果を近く論文などにまとめる。研究手法は将来の気候を予測する日本や米国、ドイ

ツの計算モデルを組み合わせた、シミュレーションしたのが特徴。雨雲の量や前線の動き方など条件が異なる九つのモデルを使い、予測数値を算出した。山田准教授は「気温上昇や積雪量の減少などの傾向がはっきりと浮かび上がった」としている。

・6倍以上に増える。冬の最大積雪量は、札幌など道央圏や道東地域で半分以下となる予測になった。研究グループは日本気象協会北海道支社と、予測データを公開するH.P.「近未来ビューワ」を共同開発。最高・最低気温や降水量、最大積雪深などについて、



予測データを地図で示す「近未来ビューワ」の画面。開発した日本気象協会道支社の小倉勉主任技師は「道内の温暖化の影響が一目で分かる」と説明する

予測では、現在のペースで温室効果ガスの濃度が上昇し、地球全体の平均気温が2度上昇する21世紀後半のデータを算出。これによると、夏の最高気温は全道的に1~2度、最低気温は3~4度上昇。各都市で最高気温が25度以上となる夏日の年間平均日数は、札幌で現在の45.6日から「68.6~79.9日」に、旭川では現在の56.3日から「75.1~91.4日」に増加する。

同支社防災・環境事業課の小倉勉主任技師(46)は「これまで異常気象とされていた現象が温暖化で頻発するようになる。予測データは関係機関の心構えの参考になる」と説明。山田准教授は「予測数値は地域ごとの特徴もあるので、早めの対応に活用してほしい」としている。

道民の翼

台湾就航

エア・ドゥ初の国際便

に向けて出発した。台湾の観光客1000人を乗せる折り返し便は、午後6時に新

われた記念式典では、斎藤社長が「創業以来、国際線就航には熱い思いがあっ

無職寺田一仁さん(64)は「新千歳発の国際便は午後との出発が多く、(旅行先で)

同社はまず、人気の高い台湾とを結ぶ路線で

元部長、入札

循環器セ

国立循環器病

1(大阪府吹田

報漏えい事件で

元情報統括部長

疑者(47)官製

違反容疑などで

漏えい先のコン

後部座席ベルト着用41% 道内一般道